

- 【日時】 令和2年1月15日（水）午前10時～正午
- 【会場】 市役所本庁本館3階 第1委員会室
- 【出席委員】 9名
- 【傍聴者】 なし
- 【議題】 1. 第2期交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
- 【資料】 （資料1）策定スケジュール  
（資料2）委員意見とその対応について  
（資料3）第2期交野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）

【委員意見概要】

■序論・概要に関して

- 新住宅地の供給によって若い世代が増えているということだが、新住宅地の供給がストップすると人口が増えないというのは問題。既存住宅地で中古住宅を流通させる仕組みをつくって若い世代を呼び込まないといけない。

■基本目標1に関して

≪前文・数値目標≫

- 「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」に関して、本当に学力・学習状況調査で測れるのか。測り方を検討してほしい。
- 児童・生徒が将来の夢や目標を持っているというのは、視点としては大切だが、数値目標とするのかどうかは要検討。
- 「将来の夢や目標を持っているか」という質問自体が漠然としているので、このままでは説明不足。
- 「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」と具体的施策・事業との関連性が見えない。わかるように関連事業の書き方を工夫すべき。

≪基本的方向1≫

- 放課後児童会の拡充には、開会時間の延長も含めるべき。
- 放課後児童会の開会時間が18時30分までというのは他市で働く人には酷。他市は7時までのところが多い。改善すべき。
- 放課後児童会は場所が狭い。施設を整備し保育の質の向上を図ってほしい。また、熱中症の危険が高まる夏場は、運動場の代わりに体育館を使えるようにしてほしい。
- 放課後児童会は定員緩和による定員拡充とならないよう、「保育の質を下げずに」という文言を追記する、あるいは「施設の増設で」と限定する文言にしてほしい。
- 子育て世代包括支援センターは、本当に切れ目のない支援を行っているのか疑問。また周知と体制の整備が必要。

## 《基本的方向 2》

- フォローアップの KPI、高い数値となっているが、実際の状況との温度差を感じる。
- 多忙な教員をサポートするスクールボランティアの活用を行ってはいかがか。専門知識を持った企業の OB 等に、プログラミング教育やキャリア教育等にボランティアとして参画してもらえば、先生達も助かるのではないか。
- スクールボランティアに関して、他市で、「人材バンク」のように専門知識を持った人材の情報を提供している事例がある。交野市でもそのような仕組みをつくれれば、学校をサポートできるのではないか。
- 「魅力ある保育・教育の推進」の中に、保育士・教員の待遇改善や負担を軽減する視点が入ればよい。
- 小中一貫教育に関して、小中一貫校とすると子どもの遊び生活圏を超えてしまう恐れがあるので、校舎統合については慎重に進めてほしい。

## ■基本目標 2 に関して

### 《前文・数値目標》

- 女性の就業率（30 歳代）について、女性の中には就労を希望しない人もいる。したがってこの指標は 100% に近づけば良い訳ではない。前文の書き方も含めて丁寧な説明が必要。
- 女性の就業率（30 歳代）に関して、やむを得ずキャリアを断念してパート等に移行する女性が実際に多い。基本目標に「多様な働き方」ということを掲げていることから、キャリア継続やキャリアアップという働き方の中身を含めた就業率としてほしい。

### 《基本的方向 1》

- 前文で「高齢者の働くニーズ」に言及しているので、施策・事業にも含めてはどうか。実際に高齢者も増えているので、そのようなサポートがあれば良いかと思う。
- 女性活躍推進優良事業者表彰について、現在の表彰件数は少ない。事業の周知が足りないのではないか。HP で見せるだけでは不十分。例えば、企業の集まりにおいて、表彰企業に事例発表してもらってそれを広報紙に掲載するとか、そのような企業の呼び込みや雇用拡大になるインパクトがあると思う。枠組みは良いので運用面の工夫を検討してほしい。
- 企業誘致に際しては、社内保育所の設置を促すことも検討してほしい。

### 《全体》

- 企業も農業も、今あるものを支援する視点を入れてほしい。
- 大阪府や商工会議所でも同様の事業を実施しているが、交野独自の運営として幅広く実施していければ良い。

## ■基本目標 3 に関して

### 《前文・数値目標》

- 基本目標に「住みたいまち、行きたいまち」だが、数値目標が「住みたいまち」関連に偏っているので、「行きたいまち」関連の指標を加えるべき。例えば、基本的方向 2 の KPI である「年間観光客数」を数値目標にしてはいかがか。

- 「交野に住み続けたいと思う人の割合」に関して、子育て世帯の方が「住み続けたい」と思う一番の要素は保育・教育が充実していることだと思うので、基本目標1に掲げている保育・教育の充実に係る取組みを再掲しておいても良いのではないかと検討してほしい。

#### 《基本的方向2》

- 交野ブランド認定制度の推進について、観光の観点からも地域ブランドの認定は有効な取組みだ。ただ問題はその先で、まず交野市民への周知を徹底することだが、一番重要なのは外部の人にいかにかん知ってもらうかという点だ。これらは観光用語で「観光商品」というが、商品にしないと外部の人には伝わらない。その形の一つとして、「フードトレイル<sup>1</sup>」というものが世界中、特に欧米で活発に行われている。交野でもそれに倣って「交野の美味しいもんトレイル」のようなものをつくってHPにマップを出しておけば、ある程度広がっていく。シティプロモーションやかたのツーリズムもイベントメインになっているが、こういった観光商品をつくって、(イベント参加のためではない)自発的な来訪を促すという形が大切だ。
- 観光に関して、私市駅周辺にも商店街がなく、また星のブランコへ行く道にも商店等がない。交野ブランドにしても、各店舗に行かないと手に入らないのでは観光客にとっては非常に不便。星のブランコに来ている約80万人の人がお金を落とせる場所を、私市駅周辺につくれないか。
- 観光客数は、市町村で「観光地ポイント」を設定して、その来訪者数をカウントしている。純粋な(外部からの)観光客が100万人を超えるとすごい観光都市だが、実際の観光客数には市民も含まれてしまう。観光商品をつくったら、外部からの観光客数を測らないと、消費額のことも含めて議論が難しい。純粋は観光客数の把握は、アンケート調査からの推定でも良い。

#### ■基本目標4に関して

##### 《前文・数値目標》

- 「市民と行政との協働のまちづくりを充実させるべきと思う人の割合」について、指標が意図する内容がわかりにくい(「不十分なので充実させるべき」なのか、「十分だけれども更に進めてほしい」のか)。目標値が下がる指標であるならば、表現を「不足している」とか「不十分」に変えたほうがわかりやすい。基本目標2の「交野で雇用創出が必要だと思う人の割合についても同様。
- 数値目標は高くなっていく指標に統一した方が良い。協働の指標も「協働のまちづくりができていく」とするなど見直してほしい。

##### 《基本的方向1》

- 市民提案型事業補助制度に関して、今後拡大するなどの方向性があるのであれば示してほしい。
- 市民提案型事業補助制度に関して、補助対象が新規事業に限定されている。交野市は、既存の市民活動に対する支援が不足している。現在活動している方が今後も継続して活動できるようにしないと、地域の活性化は実現できないと思う。既存活動の支援という視点を入れてほしい。
- [上の意見に関して] 初期費用だけ支援してそのあと切れてしまっている事例がほとんどなので、改善してほしい。

---

<sup>1</sup> 「フードトレイル」: 地域から「食」の生産、料理と文化のメッセージをブランド化して発信し、観光事業を強力に促進するフードツーリズム開発戦略。(出展: 日本フードツーリズム協会HP)

## 《基本的方向 2》

- ドローンの活用に関して、「災害時の被害状況の把握」としているが、今後ドローンの活用範囲が広がっていく可能性があるので、「災害時の被害状況の把握等」というように限定しない書き方にしてはいかがか。

## ■戦略全体に関して

- 前回会議で、アンケート調査から、戦略が市民に伝わっていないという報告があった。戦略の位置づけとも関連するが、この戦略の性格は、実は「戦略(Strategy)」というより、それを受けた具体策すなわち「戦術(Tactics)」なのだと思う。とすると、このような形でまとめることと併せて、これらの取組みで彼らがどんな利益を得られるのかという「ストーリー」を市民に訴えていくことが絶対必要だと思う。つまり、例えば、「地元で働きたい女性」、あるいは「アントレプレナー (=起業家)」といったターゲット毎に、彼らの生活に戦略事業がどう関係するのかを、彼らの目線に立ったストーリーとして示していかないといけない。沢山ある事業を箇条書きするだけでは、市民には何が自分と関係するのかわからない。

広報 1 月号で交野マラソンが見開き 2 ページ + 1 ページ、加えて表紙で取り上げられている。これができるのであれば、本戦略のストーリーを掲載するべきだと思う。せっかく良い取組みをしているので、第 2 期では PR に力を入れていけば、市民に伝わっていくし、利用してもらえるのではないか。

- [上記の意見に関して] 交野市がどのような戦略を打ち出しているかをまとめた部分は、12 ページ「6-1 第 2 期総合戦略の基本方針」の 1 ページだが、抽象的な記述のみで、交野が何をするのかという具体の記述がない。何をするのかという具体を書かないと、市民にはわかりにくい。島根県邑南町(おおなんちょう)が、10 年前に「子育て日本一のまち」と「A 級グルメのまち」という目標を打ち出した。人口減少を受けて、このままでは町にある県立高校がなくなってしまうという危機感から打ち出したのだが、結果、出生率も向上するなど効果が出ている。そのような大きな柱、交野はこういうことをやっているということを、誰が見てもわかるようにすべき。今後 3 年間の取組みであるし、総合計画基本構想にもつながるものなので、しっかり示してほしい。
- 基本目標のトップに数値目標がくると、これが全てというように受け取ってしまう。数値目標は、後述の事業を実施することによって達成されるものなので、そのような背景の説明なしにトップに書くのはいかがなものか。まず基本的方向を書いて、それから数値目標を書く方が良いと思う。